

19 ACLS コース開催の紹介と、新潟県における今後の展望について

丸山 正則・渡邊 逸平・広瀬 保夫*
木下 秀則*・田中 敏春*・野本 優二*
矢部 正浩*

県立中央病院
新潟市民病院*

今回上越において県医師会主催の ACLS コースを開催したので、その概要を紹介する。

ACLS コースは AHA がエビデンスに基づき作成した心臓救命法を普及させるための学習プログラムで、標準化による全体のレベルアップを目的としたものである。上越 ACLS コースは 18 名の受講者を集め行われた。受講後の感想は十分満足で、今後の ACLS コースには協力したいと回答した。ACLS コースは実技中心の参加型講習会であるため、受講者に比し多くのインストラクターを必要とする。ACLS 普及の必要性の認識は高まってきており、今後は県内各地で企画される機会も増えるであろう。についてはインストラクターの養成が急がれる。蘇生のプロを自認する麻酔科医ならば、ACLS の普及にも積極的に参画すべきと思われる。

20 高圧酸素療法施行時における HRV

肥田 誠治・大橋さとみ・本多 忠幸
遠藤 裕・小村 昇*・山本 智*
風間順一郎*

新潟大学大学院救命救急分野
同 附属病院集中治療部*

高圧酸素療法中には徐脈をきたすことが報告され、自律神経系の関与が指摘されている。そこで今回高圧酸素療法施行患者での heart rate variability (HRV) の power-spectral analysis を検討した。2003 年 2 月～2003 年 6 月までに当院にて高圧酸素療法を施行した 6 症例を対象とした。HRV 解析は諏訪トラストの 24 時間 R-R データ解析システム MemCalc/CHIRAM にて行った。高圧酸素療法施行中、HR は有意に低下し、その傾向は施行終了後も遷延した。また、施行中の HR, HF 成分、

LF/HF ratio の推移から、高圧酸素が自律神経バランスを修飾し、また副交感神経系に対する賦活作用を有する可能性が考えられた。高圧酸素療法施行患者の CRP と LF/HF ratio との間に有意な正の相関を認め、患者の病態と HRV との関連性が示唆された

21 Septic shock におけるバゾプレシン少量投与の経験

大橋さとみ・肥田 誠治・本多 忠幸
遠藤 裕・山本 智*・小村 昇*
風間順一郎*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
救命救急医学分野
同 医学部附属病院集中治療部*

カテコラミン抵抗性の敗血症性ショックに対し、バゾプレシン少量持続投与が血圧上昇に有効であった 2 例を経験した。

症例 1 は腸管穿孔で腸切除、ドレナージ術後、敗血症性ショックとなり、エンドトキシン吸着と大量のカテコラミン投与にてもショックが持続。バゾプレシン 0.05U/min を開始、血圧は速やかに上昇。

症例 2 は悪性リンパ腫の化学療法後に顆粒球減少、敗血症性ショックとなりエンドトキシン吸着、大量のカテコラミン投与を行ったが、ショックと代謝性アシドーシスが持続。バゾプレシン 0.04U/min により血圧上昇、代謝性アシドーシス改善。2 例とも血圧上昇効果を認めたが、最終的な救命には至らなかった。

22 “Ampulla cardiomyopathy” を疑われた 2 症例

小村 昇・山本 智・風間順一郎
肥田 誠治*・大橋さとみ*・本多 忠幸*
遠藤 裕*

新潟大学医歯学総合病院集中治療部
同 医学部救急医学講座*

心電図上 ST-T 上昇を認め緊急左室造影検査